

市民みんなでつくる、子どもたちが心豊かに学べるまち

西中学校の生徒が校門をくぐる前に一礼する―毎日見ることが出来る光景です。一礼することで心の切り替えができ、気持ちよく学校生活にのぞむことができます。

―人としての生き方を学び実践できれば、学力・体力も伸びる

道徳教育を教育の根幹としている長浜市の考え方です。さらに子どもたちが集団のなかで切磋琢磨しあいながら、社会性を高め、豊かに学ぶため学校の統合や地域に根差した教育を推進するなど、子どもたちを第一に考えた様々な施策を行っています。

今号では、そのような長浜市の教育環境や教育内容など、特色ある教育施策を紹介します。



びわ南小学校の児童の靴箱の写真です。児童の身のまわりのものを大切にするという心があらわれています。見ているだけで、気分がすがすがしくなります。

「〇〇ちゃんが靴を揃えていたよ」「〇〇君がみんなの分も靴を直していたよ」いいところはみんなで共有して、真似していく。そうすることで自然とキレイに揃った靴箱ができあがります。今では学校の伝統となっているそうです。

長浜市では道徳教育の一環として、「あいさつ」「返事」「くつそろえ」を大切にしており、市内全ての学校でも実践しています。この3つを大切にする事で、自然と学習に集中できるのです。

子どもたちを地域で育てる

地域に根差した教育

長浜市では地域の人たちが教育への参加を積極的に行っています。子どもたちもボランティアとして地域へ積極的に参加しています。地域が参加、地域に参加。子どもたちを地域で育てていきます。

地域行事への参加

毎年奥びわ湖健康マラソンでは、西浅井中学校の生徒たちが受付やエイドステーション、案内係やスターターなど、いろいろな役割で活躍します。

また、長浜あざいあつぱれ祭りでは浅井中学校の生徒が、余呉湖健康マラソンでは余呉小学校の児童がそれぞれボランティアとして積極的に



▲エイドステーションで活躍する西浅井中の生徒



▲余呉湖健康マラソンで参加者を出迎える余呉小児童

参加しています。その他、住んでいる地域の自治会の行事への参加など、他の地域でも児童・生徒たちが積極的に地域のイベントへ参加しています。

地域のイベントに参加することで、仕事や作業のことはもちろん、人との接し方なども学ぶことができます。

また、スタッフの人たちや参加者とコミュニケーションをとること、より地域愛が育っていきます。

地域の人たちの教育への参加

普段の授業や学校生活において地域の人たちがボランティアとして参加しています。家庭科の時間でのミシンの使い方の指導、読み聞かせ、職業体験の場の提供。様々な場面で児童・生徒をサポートしています。



ミシンの使い方をしている慣れている地域の人に教えていただきます。先生とは一味違った、豊かな経験にもとづいた教え方で子どもたちはどんどん吸収していきます。

朝の時間に行われている読み聞かせ。地域ボランティアの人の温かい声に子どもたちが聞き入ります。小谷小学校では12年前から行っており、子どもたちに本を好きになってもらうことを目的としています。



毎年秋に行われる湯田小フェスタ。地元の商工会や地域の人などの協力で、子どもたちに職業体験の場を提供しています。優しく仕事を教えてもらい働くことへの興味を育て、大切さを学びます。

「参加ボランティアの声」

私たち高月小学校の家庭科ボランティアは7年前から始まり、現在は15人が登録されています。

子どもたちはよく質問をして、どんどん物事を吸収してくれます。上達が早く、子どもたちの成長を通じて、やりがいを感じています。

大勢の大人たちと触れ合うことで、子どもたちの知識が増えるように、「楽しい」といつてくれるようになります。

また、多くの子どもたちは地域の自治会行事にも参加しており、自治会も子どもたちが手伝える地域イベントを多く考えているようです。

これからも、子どもたちを地域みんなで育てていくという気持ちを持って、ボランティアをしていきたいです。



高月小学校家庭科ボランティアの皆さん